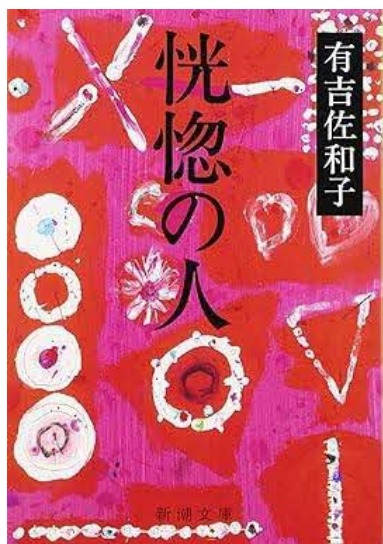


春の読書会 文学の名作を味わおう

有吉佐和子『恍惚の人』を読む



姑の急死で、認知症になった舅・茂造。働きながら懸命に介護する嫁・昭子と父親の老醜を直視できない夫・信利、ドライな息子・敏だったが、茂造の症状が進行するなかで家族の心情は変わっていく。

本作が出版されたのは53年前の1972年。半世紀前、認知症とその家族の介護を正面から描き、社会に一石を投じた有吉佐和子の代表作。

「恍惚の人」 新潮文庫版

- と き 令和7年5月18日（日）14時～
- 場 所 図書館 3階 会議室
- 座 長 作家 重田 昇先生（四街道市在住）
- 申し込み 図書館1階・一般室 ※先着12名

本について語ることは敷居が高いけれど、読書会とは
どういうものか、ご興味がある方もぜひ、ご参加ください。

問合せ 四街道市立図書館 Tel423-6443

読書会で深めませんか 読書の楽しさと表現力

普段、読書は一人で楽しむことが多いものですが、感じたことを他の人に伝えることもまた、楽しいものです。

感想を言葉で表現して、他の人に伝える経験、自分とは違う解釈にふれることは、きっと新鮮な驚き、魅力があり、読む楽しさが深まるものと思います。



四街道市立図書館の読書会



当館の読書会は、同じ一冊の本を事前に読んでいただき、読後の感想を交換し合うものです。

読書会の舵取り役として、文学に造詣の深い作家を座長に迎え、作品の背景や同時代を生きた他の作家との比較など興味深い逸話をまじえながら、解釈のポイントも学べます。初めての方も気軽に、安心してご参加ください。

◆座長からのひとことアドバイス



話すことに慣れていない場合は、あらかじめ感想のポイントをメモにまとめておくのもよい手だてです。

